

令和3年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立真田山幼稚園

令和3年12月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

<真田山幼稚園教育目標>

「明るく、たくましく、心豊かな真田山っ子を育てる」

*健康で明るい子ども *自分で考える子ども *仲良く遊ぶ子ども

*人の話を聞く子ども

<真田山幼稚園の現状と課題>

落ち着いて活動できる子どもが多い。気付いたことなどを発言することはできるが、友達と意見や思いが食い違くと本心を言えず我慢することが多い。

平成28年度の自己評価、関係者評価の課題(教育課程の更なる充実・交通ルールの遵守・保護者アンケートのとり方の工夫)を基に下記のような観点で進めていく。

○生きる力の基礎となる、心情・意欲・態度を育て、自分のことを自分でできる力、友達のことを思いやる気持ちを身につけて、小学校生活へつなげていく。

○大阪市教育振興基本計画に基づき、就学前教育カリキュラムを参考に、新しい運営の計画を作成し、真田山幼稚園の教育課程及び月ごとの指導計画の見直しを行い、幼稚園教育の中の学びを明確にする。

○健康で安全な生活を送る習慣や態度を身につけるために指導の方法を工夫する。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

○地域・異年齢などと様々な交流を行い、教師や友達に親しみ、安心して過ごすことができるようにする取り組みや、子どもの育ちについて保護者に分かりやすく伝えることで、令和3年度の保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いも表現できるようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして、教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。令和3年度の保護者アンケートで「自分で考え工夫する力が育った」と感じる保護者を80%以上にする。

○年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、令和3年度の保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

園の年度目標

①目的をもって異年齢や他クラスと意図のある交流を行うことで、教師や友達に親しみ、受け入れ合える関係をつくり、安心して過ごすことができるようにする。取り組みや子どもの育ちを保護者に分かりやすく伝えることで、保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いを表現できるようになった」の項目で肯定的回答が85%以上になるようにする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

園の年度目標

①就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。保護者アンケートで「自分で考え、工夫する力が育った」と感じる保護者を80%以上にする。

②子どもの実態に即した年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を80%にする。

大阪市立真田山幼稚園 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 園の年度目標 ①目的をもって異年齢や他クラスと意図のある交流を行うことで、教師や友達に親しみ、受け入れ合える関係をつくり、安心して過ごすことができるようにする。取り組みや子どもの育ちを保護者に分かりやすく伝えることで、保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いを表現できるようになった」の項目で肯定的回答が85%以上になるようにする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 子ども一人一人の実態や友達関係を把握し、全職員で共通理解をはかる。 指標 月1回、子どもの様子や友達関係を情報交換する。	A
取組内容②【2 道徳心・社会性の育成】 安心して過ごし、相手の思いに気付いたり、お互いの思いを受け入れ合ったりできるような環境や保育内容を工夫する。 指標 月1回、他クラス、異年齢で意図をもって交流し、その活動内容を工夫する。 週1回、クラスや学年で思いや考えを出し合えるような機会をつくる。 CAPの講習を受講する機会をつくる。(5歳児)	B
取組内容③【3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 活動のねらいや取組内容を分かりやすく写真やコメントで掲示したり、伝え方を工夫したりして保護者や地域の理解を得る。 指標 月1回、活動の内容を分かりやすくまとめて、様々な方法で知らせる。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 月1回の園内委員会だけでなく、常日頃から職員全体で子どもたちの様子を伝え合い、全職員で共通理解することに努めたことで、子どもへの援助を職員が連携して行うことができた。その結果、子どもが今までできなかったことができるようになり、自信をもち安心して過ごすことにつながった。また、保護者に幼稚園での出来事を状況説明する際、関係職員が同じ思いで丁寧に伝えるようにすることで、保護者からも子どもの関係や変化に今まで以上に目を向け、細かく伝えてくれるようになり、家庭との連携が深まった。	
② 今年度は入園当初、感染対策を講じながら、5歳児は3歳児に身の回りのことができるように、一緒に行ったり、教えてあげたり、また、発育測定を手伝ったり、一緒に遊んだり、意図的に関わりをもてるようにしてきた。2学期の園外保育ではその様々な経験の積み重ねにより、5歳児が3歳児への関わり方をよく考えて行動する姿が見られた。3歳児は5歳児に親しみの気持ちをもち、安心して関わる事ができた。誕生会などの全園児参加の行事では、どの学年も楽しめる内容を工夫し、みんなで遊ぶ楽しさを味わうことができた。	

入園やクラス分けのあった3、4歳児では、特に一人一人とじっくり関わることを常時心掛けたことで、教師に親しみの気持ちをもつことができた。そして、幼稚園生活にも慣れ、安心して過ごすことができるようになったことで、自分の思いを言葉や身振りなど様々な方法で表現したり、伝えたりすることができるようになった。

4歳児は週1回以上、遊びの振り返りを行い、楽しかったことやしたいことなど、話す機会をつくることで、友達の前で話す喜びを味わうこともできた。2学期になると楽しいことだけではなく、困ったことも出し合い、みんなで解決する方法も考え合うことができた。

5歳児は、週1回以上クラスで話し合う機会をつくっている。運動会に向けての取り組みでは毎日話し合う機会をつくり、考えや思いを出し合い、共通の目標に向けて取り組むことができた。

- ③ 月1回の各クラスの様子や子どもの育ちなどを写真を使ってまとめたポートフォリオを掲示したことに加え、降園時にその日のクラスの様子を各担任から短時間で端的に伝えるようにしたことで、保護者からの理解を得られるように努めた。そのことに関連した、家での子どもの様子や子どもと話したことなどを保護者から聞くことができ、家庭での子どもの姿を共有することができた。また、11月の幼稚園ウィークでは、保護者の保育参加を募り、子どもたちと一緒に遊んだり、保育の手伝いをしてもらったりした。そのことで、子どもの生活の様子や教師の関わりなど、普段の園の様子を知ってもらう機会になった。また、昨年度交流できなかった高校生や中学生と、今年度できるかたちでの交流を進めた。高校生が作った七夕飾りをもらったことで、子どもたちの飾り作りの刺激になった。中学校の文化祭では5歳児が作った作品を展示してもらい、中学生からのお礼の手紙に喜ぶ姿が見られた。これらの交流を通して、子どもたちは中高生に親しみの気持ちをもつことができた。その様子を手紙や写真を使った掲示物や「園長室だより」で保護者に知らせたことで、より地域との関わりや、園の様子を知ってもらうことができた。

7月、9月と計2回人数制限を行いながら幼稚園説明会を行い、27名程度参加があり、入園希望の方などへ幼稚園を知ってもらう機会ももつことができた。

次期の改善点

- ① 一人一人の実態や友達関係を把握し、職員間で共通理解に努めている。しかし保育中だけでなく預かり保育にも参加する幼児もいるため、預かり指導員にも子どもたちの様子を伝え連携をとり、安心安全に過ごせるように心がけていきたい。
- ② 感染症の状況把握に努めながら、感染対策マニュアルに沿って交流を進めたい。
3学期は生活発表会もあるので、一人一人の姿を受け止めていき、のびのびと言葉や体で表現する楽しさを味わえるようにしたい。また、クラスでの話し合い重ねていき、共通の目的をもって進めることができるようにしたい。3学期に5歳児がCAPの講習を受ける予定である。
- ③ 12月の子どもフェスティバルでは、今まで掲示した各クラスのポートフォリオを展示したり、来年度入園予定者の方にも見に来てもらったりする予定である。今後も引き続き、様々な形で保護者や地域に幼稚園のことを知ってもらえるように努めていきたい。

大阪市立真田山幼稚園 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>園の年度目標</p> <p>① 就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。保護者アンケートで「自分で考え、工夫する力が育った」と感じる保護者を80%以上にする。</p> <p>② 子どもの実態に即した年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を80%にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領に基づき、今年度の状況や本園の実態をふまえて教育課程・長期の指導計画を考えていく。</p> <p>指標 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて指導計画を考えていく。 学期ごとに全職員で見直しを行う。</p>	B
<p>取組内容②【5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>主体的に環境にかかわり、自分の思いを伝える子どもを育てるための保育を工夫する。</p> <p>指標 園内研修会などを通して、保育内容を検討しあう。</p>	A
<p>取組内容③【7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>進んで運動遊びに取り組むような保育内容を工夫する。</p> <p>指標 学期に1回、近隣の公園を積極的に利用する。 学期に1回、進んで運動遊びに取り組める環境であるか検討する。</p>	A
<p>取組内容④【7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>健康な体と心を保ち、安全に過ごすための生活習慣を身につけるための指導を工夫する。</p> <p>指標 学期に1回、保健指導を行い、指導内容を工夫する。</p>	B
<p>取組内容⑤【5 健康に関する現代的課題の対応】</p> <p>保護者も共に体を動かす機会をもったり、運動することの大切さを伝えたりすることで、保護者啓発を推進する。</p> <p>指標 月1回、安全の日を設け、徒歩通園を促す。 学期に1回、行事を活用し、親子で体を動かす機会をつくる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 一昨年や昨年度の教育課程や指導計画を参考にしながら、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら一学期分の見直しを夏季休業中に行った。各学年の整合性がとれるように気を付けながら見直した
- ② 6月にそら組の園内研修を実施した。子どもの遊びの様子を全職員で見ながら、主体的に遊ぶ子どもの姿や援助の在り方について検討会を行うことで、よりよい指導方法を考える機会となった。また、定期的実践記録をとり、それぞれのクラスの遊びの様子や実態を共有し、教職員同士で思いを出し、検討し合った。今の子どもの実態に合わせてどのような環境が必要かを考えながら、子どもと一緒に遊びの場を整えていくことで、一人一人が安心して幼稚園で過ごし、自分の好きな遊びを見つけたり、教師や友達に思いを伝えたりしながら主体的に活動する姿につながった。
- 2学期に入り、短縮保育の期間を活用して、毎日1時間程度、教職員全員で、子どもの遊びの実態や環境について検討会を行った。そして、子どもの遊びの実態に合わせた援助の在り方や環境構成を工夫していき、子どもたちが「もっとこうしたい」という思いを実現できるよう努めたことで、意欲的に遊ぶ姿が見られた。9月は指導要請や研究ブロックでの研究保育を実施し、指導主事先生や他園の先生方の視点からも意見をもらうことで、園全体の保育力向上につながった。
- 運動会では、子どもの興味から遊びを広げていったことで、子どもが主体となって取り組み、自分の思いを出せるようになってきている。
- それぞれのクラスで一人一人の思いを大切にしながら保育を進めていくことで、子ども同士で思いを伝え合ったり、自分たちで遊びを進めていこうとしたりする姿も見られるようになってきている。
- ③ 真田山公園や、三光神社を活用し、園外散歩に出かけた。広い場でのびのびと歩いたり、虫を追いかけたり、階段を上り下りしたりと体を動かす心地よさを味わうことができた。サーキット遊びの構成を子どもと一緒に考えながら整えていたり、スケーター、三輪車の置き場を遊びの動線と考えた環境にしたりした。そのことが進んで体を動かすきっかけにもなった。気温が高い時期には、水や泥遊びを存分に楽しめるように、広い場や、十分な数の水鉄砲を用意したり、的をつくったり、バケツ、桶などの遊具を整えたりした。水や泥の感触の心地よさを味わい、心も解放され、全身で遊びを楽しむ姿が見られた。
- 5歳児は、運動遊び（ホッピングや一輪車、なわとびなど）のチャレンジタイムをつくったことで、自分なりに目標をもち、それに向けて持続して頑張る姿が見られた。運動会に向けて取り組む中で、友達からの認め、先生からの励ましもあり、最後まで頑張る姿が見られた。運動会で発表できたことが自信につながり、興味をもった3・4歳児にも優しく教える姿が見られた。
- 運動会を経験し、「楽しかった」「速く走れるようになった」など、運動遊びにより意欲的に取り組むようになった。運動会保護者アンケートで『体を動かす遊びを好んでするようになった』の項目で肯定的回答が95%の高評価であった。
- ④ 11月の発育測定時に、手の洗い方についてクイズ形式で指導を行った。ねらいをしぼり、伝えることが多くなりすぎないように気を付けた。これによって短く分かりやすい指導となった。
- 手洗いやマスクの扱いについては養護教諭や担任から日常的にクラス全体や個別に指導を行っているため、おおむねしっかりとできていると思われる。
- 友達同士でマスクの扱いや手洗いの仕方について声を掛け合ったり、注意を促したりする姿も見られる。
- ④ 今年度は、新入園児が多いことから、安全の日に徒歩通園をすることの大切さを子どもに詳しく伝えた。保護者にも、子どもに知らせた内容を伝え、徒歩通園を促すことができた。また、5歳児には、来年度に小学校入学を控えていることから、年齢に合わせて安全な道路の歩き方を知らせながら、徒歩通園を促した。安全の日には、保護者も子どもも徒歩通園を意識して登園している様子が感じられた。さらに、今年度は足の運動機能についてのコラムを掲示・配布し保護者啓発に努めた。
- 親子で体を動かす機会については、1学期は、新型コロナウイルス感染症予防のために親子で参加する行事を行うことができなかった。しかし2学期は、運動会後に5歳児と保護者が一緒にリレーを行い、親子で体を動かして活動する機会をつくることができた。また、1学期終業式の中で、家の中でも楽しめる親子の運動遊びを紹介して、家庭での運動遊びを促すことができた。夏休み明けのアンケートでは、約33%の方が紹介した運動遊びを家庭で楽しんだという回答であった。

次期の改善点

- ① 2学期以降も1学期同様に新型コロナウイルス感染症予防の観点を踏まえた指導計画について全職員で見直す機会をつくっていききたい。
- ② 12月に1回、3学期に3回園内研修会を行う予定である。3学期も保育内容を検討する機会をもち、日ごろから教師間で連携を図り、子どもたちが主体的に活動できるような援助や環境の工夫に努めていききたい。
- ③ 3学期は寒さに負けず、楽しみながら、進んで体を動かすことができるように、運動遊びを工夫する。
- ④ マスクをすぐに外してしまったり、手洗いが丁寧にできていなかったりする幼児もいるため、手洗いの目的や方法をわかりやすく伝えられるように、担任と養護教諭で連携して声かけを強化していききたい。
また、対人や不注意によるけがが増加しており、2学期は医療機関を受診することもあったため、安全についての個別の指導や集団指導を行う必要がある。
- ⑤ 3学期も、安全の日を活用し、徒歩通園を促していききたい。また、今後の新型コロナウイルス感染症の状況に合わせながら、親子で体を動かして遊ぶ機会をつくったり、家庭で楽しめる運動遊びを紹介したりしていききたい。